

令和6年度 第1回 在宅医療・介護関係者研修会

アンケート結果

73名配布 65名回収（回収率89.0%）

1 職種	回収
医師	9
歯科医師	9
薬剤師	9
看護師	6
介護支援専門員	17
訪問介護員	5
医療相談員	3
地域包括支援センター職員	7
2 テーマについて	
よい	62
ふつう	3
悪い	0

理由（よい）

医師

- ・救急隊が必要とする情報を示していただいた
- ・色々な職種の方の考え方が聞ける
- ・各職種の方が意見交換ができた点
- ・今後の在宅医療、介護連携の大きな課題の一つ
- ・救急隊との情報共有について改めて確認ができました

歯科医師

- ・とてもよかった
- ・歯科では救急隊要請存在自体が少ないので、良い研修になったので、歯科医師会の多くの会員にも研修してほしいと思う。
- ・救急隊については初めて知ることばかりだったので、参考になり、理解できた。
- ・日常利用しているシステムの具体的な動きが理解できた
- ・日常でみなが困るだろうと思う内容だったから

薬剤師

- ・薬局で訪問を行っており、特に独居の方など、急変にたちあうこともあるのでは・・・と日々思っていたので、救急搬送を行うかどうかの判断や搬送する場合に準備できる情報などがわかり、安心につながったと思う
- ・普段聞けない話

- ・救急隊の方などの意見などは、意識したことすらなかったなので勉強になった
- ・多職種の方から様々な意見が聞けて、大変参考になりました
- ・救急について知らないことを知れた。他職種の方の意見を聞いたのが勉強になった
- ・実際に考えられるケースであり、他の職種の考え方を知るのは重要
- ・普段の業務でお薬手帳、患者への介入の必要性などを再確認できた

看護師

- ・救急車を呼ぶ場面の参考になった
- ・救急隊の方の生の声
- ・救急時にどのような情報を共有するべきかを学ぶことで、救急搬送がスムーズになるため、しっかり学ぶ必要があると感じました。また、救急時の対応を多職種で考えることでいろいろな考えることができるので、よいと思いました
- ・救急を呼ぶ時に注意しなければならない点を学べた
- ・DNAR（蘇生措置拒否）等いろいろと問題のあるテーマなので、勉強できてよかったです。

介護支援専門員

- ・医師からの提案、発言内容は重く参考になりました
- ・救急出動の回数が多いことに驚いた。また、東部消防組合の連携を知ることができてよかった
- ・多職種と意見が出しあって連携がスムーズにできるようになるのではと思いました
- ・なかなか知ることができないことを学ぶことができました
- ・救急車を呼ぶ前の事前準備が重要だと感じました
- ・顔の見える中での話し合いができた。必要な情報、今後行うべきことが理解できた
- ・実際に救急車を呼んで困ったことがあるため、とてもよい勉強になった
- ・救急の話を伺えたことはとてもよかったです
- ・書き残しておく情報があれば登録する
- ・急変時の対応について、ケアマネジャーの研修ではあまりないテーマなのでよかった
- ・救急隊の方のお話をゆっくり聞く機会がなかったので良かったです
- ・知りたい情報（現在の救急について）でした

- ・知りたい情報を知ることができた
- ・利用者状況がはっきりと分かれており大変勉強になった

訪問介護員

- ・勉強になりました
- ・緊急時の通報は、どの程度でするものなのか、どのような流れで連絡をすればいいのかがよくみえた
- ・高齢者施設で救急の依頼することもあり、参考になりました
- ・大変多職種が集まり、それぞれの目線で話を聞くことができました

医療相談員

- ・普段、救急隊の人から見たお話を聞く機会がないのと、様々な職種の人と一つのテーマを考える機会がないので、楽しかったです

地域包括支援センター職員

- ・急変時の対応に悩むことも多いため、参考になった
- ・救急の現状、直近の隊がかけつけるルールなどが知ることができた

理由（ふつう）

歯科医師

- ・歯科が関われる内容ではなかった

○「第1部 患者者の急変時における救急隊との情報共有について」で得られたことや感じたこと

医師

- 意思表示があった場合の対応は国をあげて法的問題点を整理した方が良いと思う
- 患者搬送の際、救急隊に提供する情報が不足していたことを痛感した
- 血圧、呼吸、脈は常に検査できるように、画像が救急時に送れるとよい
- 現状が良くわかりました。必要のない場合は、救急車を呼ばないようにしています
- 救急隊の方がたに心より御礼を申し上げたい。救急隊の活動が円滑に活動できるように考えて業務にあたりたいと思いました
- 救急要請について、呼んだ以上、心配蘇生が必要な場合は「やらない」ということはないことを周知する必要性を実感した
- 救急隊にいかに円滑に搬送、連携していただくか、協力できる方策を考えていきます
- 救急隊が現場で知りたい情報については、実際の現場できちんとできていたかった事を痛感しました

歯科医師

- したほうがよい
- 患者の情報手帳、お薬手帳、所在を普段から用意することは必要と感じた
- 救急隊を呼ぶ側の教育も必要と感じた
- どんな時に呼んでよいか？すべて呼んでよいと思っていた
- 救急通報が多すぎて救急対応ができないことがあるとテレビで見たこともあり、救急車を呼ぶ時の判断を適切にすることが大切と思った
- すぐ用意できる情報の必要性
- 普段あまり知ることがない救急隊の仕事、救急隊の方が知りたい情報を知ることができてよかったです
- 知りたい情報がわかり、自分も普段の情報について問診票の更新を考えさせられました

薬剤師

- いざ通報しなくてはならないシーンで準備すべき情報がわかった
- 本人情報をまとめておくこと
- 薬の手帳などには、情報のみ意識がいていたが、急変時などの時にすばやく取り出せる場所においておく重要性などのアドバイスも必要と感じた
- 予想以上に必要となる情報が多いことを知りました。医療従事者の一人として速やかな情報提供がだせるよう心がけていきたい
- 救急隊員の方知りたい情報がわかったことがとてもよかった。薬剤師の立場からできることを考える機会となった
- 必要な情報が多いことに気づけた。次の医療につながっていると認識が深まった
- 知らないことを知ることができた
- 救急搬送する際にいろいろな情報が必要になるので、普段から患者情報がすぐわかるようお薬手帳に情報を記載すべきだと思いました
- 救急隊の方が情報共有できるように、日頃かわる人たちの情報共有ツールが大事と思いました

看護師

- DNARの真の意味、法的効力をもっと知りたい
- 情報共有の内容について確認できた
- 救急隊の現状を知ることができた
- 救急隊の方がどのような情報を必要としているのか知ることができたので、今後の仕事に生かせると感じました
- 救急隊の方々、患者の家に駆けつけてから病院へ搬送するまでの短い時間で、救命処置をしながらたくさんの情報を集めなければならないので、とても大変だと思いました。病院と現場との板挟みの状態も苦勞されていることがわかりました。情報提供と協力したいと思います

医療相談員

- 救急隊の人がどんな情報を、どんな背景で収集しているのかを知ることができ、質疑応答を含め、マイナンバーカードの必要性がよく理解できました。日々、要請の多さ、対応の大変さがある中で、講義いただきありがたかったです
- DNARのとらえ方、マイナカードの運用に期待
- 救急隊の方には、いつもお世話になっております。普段知り得る状況以外のことも知れてよかったです

介護支援専門員

- 救急隊への情報共有について、以前救急車を要請したときに、ここまで聞く？と思っていたが、本日は聞くことができたので情報を伝えなければならない理由がわかりよかった
- 救急要請の中に、軽度者が多く、状態をみて判断した方がいいなと思いました
- 救急隊の知りたい項目が知ることができてよかったです
- 必要な情報を各ケースに用意することが大切だと思う
- 常に薬の情報やコロナの情報などを最新のものにしておく必要があると思いました
- ケアマネが普段とっているアセスメントの重要性がよくわかりました
- 救命のことを理解するために講習をうける
- 救急隊がほしい情報が具体的にわかったこと

- ・救急隊の現場で考えていっしょにすることが聞けたので参考になりました
- ・普段きけない内容がきけました
- ・必要な情報を理解することができました。今後活用したいと思います
- ・ケアマネジャーとして知りたい情報をまとめておく必要があると感じた。現在も必ず情報は作成しているが、もっとわかりやすくできるのではと思った

訪問介護員

- ・救急隊の対応をすみやかに行うために、必要な情報が何かしっかりとわかった
- ・救急隊員の話の伺うことができ、とても有意義でした。現場でどのような情報が必要なのかは本当にわかりやすく、今後に役立たせたいと思います
- ・必要な情報が多いことに驚いた。普段から準備しておきたい
- ・救急時に必要な情報ができるように準備が必要
- ・つい最近もヘルパー介入時に救急搬送をしました。その際に必要な情報を事務所でまとめました

地域包括支援センター

- ・実際の業務において、救急要請をすることがあるため、救急隊の情報共有事項や現場の状況等を知ることができてよかった
- ・埼玉東部消防組合について、体制や設備を知ることができてよかった
- ・今まで救急要請を1度しか行ったことがなかったので、必要な情報を知ることができて、今後の業務に活用できると思いました
- ・救急隊が確認したい内容が知ることができ、参考になった
- ・わかりやすく、よかった
- ・救急に関わることはあまりなかったので、救急隊の方々の考えを学べてよかったです
- ・マイナンバーカードが取り入れられる情報を知れてよかったです

○「第2部 グループワーク」で、得られたと感じたことなど

医師

- ・いずれもよくあるケースなので、対処方法や情報共有など、普段から備えておくことが大事だと思った
- ・患者の日常生活について、医師が介入する必要性を感じた
- ・救急か死か、何を急ぐかチェック、家族への説明をしっかりと、末期で終末対応を考えておくことが大切
- ・時間が短い
- ・現場の方々のご意見が聞けてよかったです
- ・症例によってはコメントが難しかった
- ・関係職種間での連携のあり方が大事と考えます
- ・各事例については、実際に直面しているところなので、各立場からの意見が聞けてよかったかと思えます

歯科医師

- ・他の意見が聞けてよかった
- ・いろいろな職種の方が集まっていたので、様々な視点から意見が出てよかった
- ・色々な意見を聞いて様々な考えに勉強になりました
- ・普段、連絡先（複数）を聞いていた方がよいと感じた
- ・他職種の視点から多角的な意見は違った考え方ができてよかった
- ・各職種で着目点異なる点が興味深かった
- ・自分が普段関わらない方たちの意見を知ることができたこと、また、一般的でない内容について、時間内でディスカッションがすばらしかった
- ・立場の違いからの考えを知れてよかったです

薬剤師

- ・緊急時にはどうしてもパニックになりやすいので、日頃から情報共有、連携を深める必要性を感じました。また、独居だったり、医療・介護の介入の少ないケースだと情報収集が難しいと感じました
- ・救急車を呼ぶ時の情報はきちんとしておく。かかりつけ医にするかどうかを考える。医療情報、あんしんカードを作っておく
- ・他業種の方との情報共有ができて有意義だった
- ・実際の事例を通じて連携の重要性を感じました
- ・他職種の方たちが求めていること、普段から意識していることを知れた
- ・ケースによる方向性の違いを認識した（他のグループの発表で理解が深まった）
- ・他の職種の方と意見交換できた
- ・他の職種の方は、かかりつけ医の認知はあるが、かかりつけ薬剤師の存在の認識が、まだまだ低いのだと感じました。かかりつけ医は忙しいので薬剤師が代わりに介護保険の説明をし、地域包括支援センターやケアマネとの連携をしていければと思います
- ・一番接点の多いヘルパーさんの情報を活用、連携

看護師

- ・情報共有の必要性和その方法
- ・他職種の人たちと話し合うことができた
- ・スケジュール上仕方がないと推測しますが、話し合い（他交流）の時間が短かった
- ・職種が違うといろいろな考え方や対応があることがわかり勉強になりました
- ・症例が難しかったのですが、どのような対応がいいのか、救急を呼ぶタイミングなど話し合えた。情報収集が必要

- ・いろいろな意見が聞けました

医療相談員

- ・日頃から気になるケースは、介入、つなぎをよりしてあげたいと思います
- ・他部署、他施設等々集まると視野も広くなり思いのほか情報が集まる
- ・他職種の方とセッションができ、各職種の良いも悪いも状況がわかりよかったです

介護支援専門員

- ・専門的な意見が上がり、勉強になりました
- ・色々な職種の人から様々な意見が聞けてよかったです
- ・他職種の方と顔を知る機会がよかったです
- ・他職種連携の必要・重要性の再確認、マイナンバーカードの重要性
- ・視点が違うところから学ぶことが多くありました
- ・医師と話ができたので、今後の連携に役立つと思います
- ・多職種の人が集まると、その場で感じるものが違って、なぜそこに目が行くのか？とても勉強になりました
- ・発表が重複しないようにした
- ・マイナ保険証のメリットについて知ることができたのでよかったです
- ・職種によって考えが違うこともあれば、同じ情報・内容が知りたいんだなと感じました
- ・時間が短く、話し合いが満足にできませんでした。他職種との連携がとれてよかったです

訪問介護員

- ・医療・介護に関わるそれぞれの職種からの目線が学べた
- ・とても難しい事例でしたが、いかに前情報やまわりとの連携が役立つのかわかりました。すべてにつながるとつくづく実感した
- ・事例を前もってわかっていたらもう少し安心してグループワークに望めたかと思います。短時間で意見を出すのが難しかった。他職種の色々な意見がきけて、面白かった。
- ・いろいろな症例から学ぶことができた

地域包括支援センター

- ・あんしんカードの有効性、地域とのつながりの大切さ、介護保険についての周知・理解の促進の重要性を感じた
- ・グループワークを通して、普段直接関わることの少ない医療職の方と交流ができてよかった
- ・普段からの他職種連携の大切さを再認識した。また、当人を把握できるように家族が関わりを持ち、普段の状況をきちんと知っておくことが重要と感じた
- ・多職種、急変時に対しての意見を聞くことができ、参考になった
- ・難しい事例に対して各職種ができること、ききたいことはバラバラだったので勉強になりました
- ・5グループの事例が難しかった。50歳、独居、家族なし、各職種の方の意見が参考になった。もう少し時間が欲しかった
- ・関わりのある機関が疾病から生じるリスクを予測して、どこの機関が関わっておいた方がいいかを想定して連携できると良いと思いました
- ・「本人のことがわからなくて困る」が少なくなると支援者の困り感や戸惑いは少なくなると思いました
- ・それぞれの職種によって視点がかわってくるので、関わり方の方法が、自分が考えていなかったことがでて来たので、学びになりました

3 今後取り上げてほしいテーマ（自由記載）

医師

- ・どういう連携ができるか？
- ・通院から在宅へのシームレスな包括的医療・介護のための病・診・介護の連携のあり方について
- ・認知症の患者の対応について

歯科医師

- ・マイナンバーカードによる医療・介護連携について
- ・このような機会を定期的に作っていただけたことが大切だと思います

薬剤師

- ・各職種から、各職種へ求めていること
- ・認知症の方の対応で、もっと他職種と話してみたい

医療相談員

- ・ACPの話（関谷先生）がききたい
- ・カンファレンス的なことができれば良いと思う

介護支援専門員

- ・ひとり暮らし（家族との関わりが薄い方が多くなってきている）
- ・引きこもり家族（息子・娘）を抱える高齢者
- ・訪問診療との連携、マイナンバーカードの登録方法
- ・多職種で会える場がふえれば、いろいろな声をきけます。その機会がたくさんあるとよいと思います
- ・ハラスメントケース
- ・生活保護の方の支援

地域包括支援センター職員

- 身寄りがない方への支援
- 支援が進まない方への支援（金銭面、本人の拒否等で）
- 緊急連絡先がない独居の方の対応について（医療、介護）